



06
River and Coastal
Areas Museums

Museum of The Sewerage

小平市ふれあい下水道館

下水管に入って 都市の水環境を体験する



地下 25 m の下水管を観察

「ふれあい下水道館」は東京の近郊、中央線国分寺駅で西武国分寺線に乗り換えて2つ目の鷹の台駅で下車、玉川上水に沿って歩いて10分ほどのところにある。資料館の外観は円柱状の小さな公民館風であるが、地下は5階まである“奥深い施設”で下水道を紹介するのにふさわしい構造と

なっている（次頁写真1）。また入口では受付の女性があたたかく迎えてくれて下水を扱う資料館とは思えない清潔感が漂っている。この目玉は地下25mに埋められている実際の下水管に入って直接下水の流れやにおいが体験できることである（次頁写真2）。

下水道や水環境を紹介した資料館は全国に数多くあるが、この「ふれあい下水道館」

は予約なしに実際に流れている下水管に入ることのできる唯一の貴重な資料館である。

下水道は都市生活によって不可欠の施設であるとともに河川環境を縁の下で支えてくれている。しかし、ふつうは地下深く埋められていて見えないため、そのしくみがどうなっているのかその役割がわかりにくい。ところで、映画「第三の男」ではウイーンでの下水道の追跡シーンが有名であり、ウイーンやパリでは下水道の中が観光コースになっていると聞く。ヨーロッパまで行かなくても日本で気軽に見学できるとすれば、せめて自分の出した汚物の行方について知っておく責任もあり、「百聞は一見に如かず」一度ぐらいいは地下の下水管を探検することも有益であろう。

下水道の歴史

「ふれあい下水道館」は平成 7 年 (1995) に東京都小平市によって開設された。小平市では下水道整備を昭和 45 年 (1970) に着手して平成 2 年 (1990) に完了した。この資料館はこれを記念して建設されたものである。

当時、全国の下水道普及率が 40% (現在は約 70%) であり、全国市町村で整備の完了したのが 13 番目だったことを考えると小平市はめずらしい市町村の 1 つだったことになる。

日本では古くは尿尿を農作物の肥料として用いるなどリサイクルが進んでいたため、下水道という発想があまりなかった。しかし、明治になって肥料としての需要が減ったり、大雨で排水と汚水が混ざって街が浸かるなど汚水の行き場が失われた。また、明治 12 年 (1879) にはコレラが大流行して汚水が原因ではないかとされた。こ



上/写真 1 ふれあい下水道館の全景 (模型)
下/写真 2 地下 5F で下水道を直接観察の眺望
(ふれあい下水道館ガイドブックから転載)

のため、下水道が計画されて、明治 17 年 (1884) に東京の一部で日本で初めての下水道が建設された。その後、明治 33 年 (1900) に下水道法が成立して、少しずつ普及が進むようになった。しかし、予算の問題、特に上水道と下水道のどちらを優先するのか、合流式か分流式にするのかなど議論が分かれて、大都市を除いて全国的に普及することにはならなかった。本格的に下水道が普及するようになったのは、第二次世界大戦後、産業が急速に発展して、都市への人口の集中が進んでからである。また、産業の発展に伴い、昭和 30 年 (1955) 頃から、工場、生活等の排水によって河川や湖沼などの公共用水域の水質汚濁が顕著となってきた。そのため、昭和 45 年の下水道法の改正により、下水道は街の中を清潔にするだけでなく、公共用水域の水質保

全という重要な役割を担うようになった。さらに、最近では下水処理水は高度処理されて川や海に放流するだけでなく、再生水と呼ばれてせせらぎ水路のような環境用水、工業用水、水洗トイレなどに活用されている。

ふれあい下水道館の展示内容

資料館の屋外には下水道工事で犠牲となった方々を慰霊する記念碑、湿地帯のビオトープ、シールドマシンの模型などが展示されている(写真3)。入口から受付を通過して中に入ると、エントランス(水の風景)となっており、めずらしい水琴窟*からの音色、溪流にすむ魚の水族館などによって、来客者を清流のイメージ空間を引き込んでくれる。中は地上2Fから地下5階まであり、7つのフロアで構成されている。

まずはエレベーターで地下5階(地下25m)まで降りてみよう。そこは地下基地

*江戸時代に庭師が考案した音を楽しむ日本庭園技術の一つ。底に穴をあけた瓶を伏せて土の中に埋めて水が穴から落ち、下の水面を打って音を出す。



上/写真3 ふれあい下水道館の入口(左は記念碑、建物前には湿地帯ビオトープ)

下/写真4 下水管に通じる横坑(地下5F)

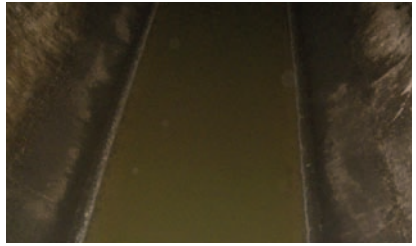


写真5 下水の流下状況

のようになっていて下水管やマンホールの模型が展示されている。そこからさらに横坑が延びており、飛行機のハッチのような二重の扉をくぐると、お目当ての直径4.5mの本物の下水管に到達する(写真4)。本来下水管の中は真っ暗であるが、下水管の奥に向かってスポットライトが当てられていて、下水管の中に橋が架けられ、下水管の真ん中に立って流れを観察することができる。

下水管の奥のほうからゴーという洪水が迫ってくるような音、また、耐えられないほどではないが身体に染みつくような独特の臭気(トイレ臭とは異なる)となま暖かさが漂う。ライトアップのせい、管の中は霧がかかっているように感じられる。音は先のほうで大きな支線が流入しているためであり、臭気となま暖かさは下水管を流れる間にバクテリアによって分解が進んでいるためとのことである。

流れの水位は普段は数10cm程度で茶色をしているが(写真5)、大雨のときは水位が上昇するため、扉が閉められて、観察用の橋も下水に飲み込まれる。この下水道は公共下水道で雨水と汚水(約42,000人分)をいっしょに流す合流式であり、洪水時には雨水も含めて最大約48m³/sの水を流せる断面となっている。この下水は北多摩1号水再生センター(下水処理場)で処

理された後、多摩川に放流されている。

下水管を見終わったら、地下5階から上の展示室、講座室、エントランスホールに上がっていきこう。展示室は特別展示を含めて3フロアあり、下水道の実態や歴史などを小学生にも理解できるように映像やパネルを使って紹介している。また、地上の2階部分は水の図書室となっており、だれでも利用できるようになっている。

盛りだくさんの展示内容のため、全部をじっくり見学しようとすれば最低2～3時間は必要である。閉館は午後4時と少々早めなので余裕をもって出かけた方がよい。最後に各階の展示内容を簡単に紹介しておく。

●地下1F 講座室（ワークショップ）

多目的に使える「実験空間」である。インストラクターによる下水道や水環境に関する課外授業や実験を行うことができる。

●地下2F 展示室1（くらしと下水道の展示）

下水道を模型、映像を用いてわかりやすく説明している。明治、大正、昭和、平成と移り

変わる下水道事情が詳しく説明されている。

●地下3F 展示室2（小平の水環境の展示）

小平市の水環境の歴史を展示しているほか、多摩川から武蔵野を通過して江戸へ上水道として引かれた玉川用水、井戸用具の実物や懐かしい写真も展示している。

●地下4F 特別展示室

企画イベントを行う多目的空間である。現在は「近代下水道の前史と夜明け」が開かれており、江戸時代から明治時代の下水道を貴重な資料が展示されている。

●地下5F 展示室3（ふれあい体験室）

ここでは前述したように実物の下水管の中に入ることができる。このほか、下水道で実際に使われている管やマンホールを実物展示している。

●2F（水の図書館）

水に関するミニ図書館である。また、来客者の休憩、質問や相談もできる。

佐合純造

（(財)リバーフロント整備センター）



INFORMATION



●小平市ふれあい下水道館

■所在地 / 〒187-0022 東京都小平市上水本町1-25-31 ■TEL / 042-326-7411 ■開館時間 / 10:00～16:00 ■休館日 / 月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始（12月27日から1月5日） ■入館料 / 無料 ■アクセス / 西武国分寺線「鷹の台駅」下車 徒歩7分

■施設に関する情報 /

<ふれあい下水道館>

http://www.city.kodaira.tokyo.jp/gesui/gesui_index.html

